

レポーター：後藤さん、こちらはこういった作品なんですか。

学芸員：これは日本の平安時代後期ですね、12世紀ごろに作られた薬師如来という仏像を彫った仏像です。

レポーター：私が想像していたよりすごく大きいですね。

学芸員：そうですね。このお像がもともとあった東光院というところの本尊ですね。お寺の中で最も重要な仏像として制作されたので、まあ非常に大きく作られていますね。

レポーター：薬師如来という方は、こういった方だったのでしょうか。

学芸員：日本の仏教にはいろいろな仏様がいらっしゃるんですけども、その中で特に薬師の薬という字が意味するように病気を治してくれる、そういうご利益が信仰された仏像です。

レポーター：左手に何か壺のようなものを持っていますよね。

学芸員：あれが薬壺といって薬の壺と書くんですけども、病気を治すということを象徴する1つのシンボルといますかね。はい。

レポーター：こちらが作られた時代背景など教えてください。

学芸員：このお像の特徴はもうとてもおだやかなお顔で、着ている袈裟もですね、とてもこう抑揚のないというかスラリとした形が特徴なんですけども、そういったのは平安貴族のそういう美意識というかそういったものを反映しているという風に考えられています。

レポーター：このまるい、これは何を表しているんですか。

学芸員：あれはそうですね、頭光、頭の光と書いてずこうと読むんですけども、やはり仏様の神々しさを表現すると考えられています。

レポーター：後藤さん、こちらの薬師如来像はいつもこちらで見ることができますか。

学芸員：はい。1階の常設展示室に来ていただければ、いつでもここに立っておられます。

レポーター：はあー、拝んでいくと、何か風邪をひかないなどのご利益とかは。

学芸員：そうですね、まだ寒いですからね。そういったご利益もあるかもしれませんね。

レポーター：今日はしっかりと拝んで帰りたいと思います。